

介護が必要な高齢者の自宅での暮らしを支える「24時間対応の定期巡回・随時対応サービス」。在宅介護の切り札として4年前に始まったものの思うほどに広がらず、実施する自治体は2割強。採算を気にして二の足を踏む事業者が多いためが最大の理由。そんななか、介護大手が高齢化が急速に進む都市部で本格展開を始めた。サービスの現状と今後を探る。

介護保険法の改正で2011年には、24時間態勢で食事や排せつなどの看護ケアを提供する。要介護度が高い高齢者が自宅でも施設並みのサービスを受けられることが期待された。

しかし、事業所数や利用者数の伸びは鈍い。厚生労働省の2015年10月の調査では定期巡回サービスの事業所数は全国586カ所、利用者は1万2300人。団塊の世代がすべて後期高齢者になる25年時点まで利用者15万人という当初目標を達成するには歩みが遅い。

介護大手が都市部で展開

り、緊急コールにも対応するためには、半径1キロ圏内に1つ事業所を開設する計算になるという。認知度がいまだに低く、採算が合つだけの利用者が確保できない。かといってカバー範囲を広げると「コールしても来てくれるまでに30分以上かかる」といった利用者の不満が募る。

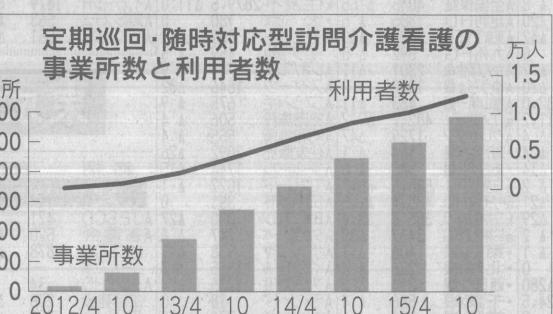
介護サービス中堅のやさしい手（東京・目黒）は、巡回効率を高めるためサービス付き

A black and white photograph capturing a moment of interaction between two individuals. On the right, an elderly woman with short hair is seated at a table, focused on writing in a spiral-bound notebook with a pen. She wears a light-colored, patterned blouse. On the left, a younger person, possibly a man, is also seated at the table, smiling warmly at the woman. He wears a light-colored polo shirt. The table in front of them holds several items: a large sheet of paper with handwritten text, a magnifying glass resting on the paper, and a stack of papers or books. The background shows a wall with various pinned documents, suggesting a workspace or office environment.

「在宅老人ホーム」サービスで笑顔の加藤規久子さん（東京都内の自宅）

The chart displays two data series: the number of elderly care facilities (事業所数) and the number of users (利用者数). The x-axis represents time points from April 2012 to April 2013. The left y-axis shows the number of facilities (事業所数), ranging from 0 to 100. The right y-axis shows the number of users (利用者数), ranging from 0 to 1.5 million. The number of facilities increased from approximately 10 in April 2012 to about 40 in April 2013. The number of users increased from approximately 0.3 million in April 2012 to about 1.1 million in April 2013.

期間	事業所数	利用者数
2012/4	10	0.3
10	10	0.3
13/4	40	0.4
10	40	0.5
14/4	50	0.6
10	60	0.7
15/4	70	0.8
10	80	1.1



そんななか、15年2月から介護大手のSOMPOケアメソセージ（岡山市）が「在宅老人ホーム」としてサービスを始めた。「人口密度が高い大都市なら施設に代わる賃の高い定期巡回型サービスが可能」（岩本隆博SOMPOケア取締役事業推進部長）
「めいと知人の助けと24時間サービスで、毎日、食事や買い物を手伝つてもらえる」と笑顔で話すのは、東京都内で独り暮らしの加藤規久子さ

ヘルパーが来るまで利用者が
排せつを我慢するといった、
在宅介護の問題点も減る。

「定期巡回」広がる？

岩名氏は「定期巡回サービスが在宅介護の主流になる」とみる。親などを在宅介護する場合、訪問介護やデイサービスなどを組み合わせることが多い。ところが要介護度が上がるにつれ「誰もみていないときに何かあつたら」など不安を感じ、結局は施設への入所を選ぶという。「いつも困つたらすぐ呼べる」サービスを何度も定額で利用可能なら「不安が薄れ、施設でなくとも大丈夫との気持ちに

「在宅医療に不可欠」

在宅医療を手掛ける医師も定期巡回サービスの広がりを期待する。佐々木淳氏は「在宅医で悠翔会理事長のところには、24時間態勢で生活面を月10万円以下も可能に支える介護サービスが欠かせない。両者が連携すれば最期まで自宅で暮らしたいとの願いをかなえられる」という。

施設の費用は月15万～20万円

が相場。住宅なら「10万円以下も可能」一方、同様のニューモデルとして能型居宅介護が相場。住宅なら「10万円以下も可能」

巡回などを使つ在
円以下でやりくり
名氏)。

施設並みに24時間見守り

る。介護職員3人が8～10人利用料は要介護3の場合、介護保険の定額料金と、掃除や電球交換、犬の散歩などの生活支援サービス、食材や弁当などの調達サービスを合わせ月額約7万5000円にする。2～3年内に東京23区全域、5年以内に大阪市と名古屋市でも始める計画。

中華書局影印